

ウシマルくんと  
ウマキチくんの  
おやつ



mikatuki98

一緒にゲーム『ビタミンバズル』をしていたウシマル君とウマキチ君が、お互いお腹が空いたねっ！ てことで夫々が持っていたおやつを食べることにした。

ウシマル君は大きなメイプルマフィンを一つ。

ウマキチ君は3つ連なっているよもぎの串ダンゴを二本。

お互い相手のおやつをチラリとみながら自分のおやつを美味しそうに食べていた。

ウシマル君が半分だけメイプルマフィンを食べたところでウマキチ君に言った。

「ねえ、ウマキチ君。 ボクのメイプルマフィン半分いらない？」

「え？ うん。 いらないよ」

ウマキチくんがあっさり応えた。

「ふ～ん。 でもボクはよもぎの串ダンゴが食べたい訳じゃないからね」

「.....ヒヒーンそっか。 ウシマル君はボクのよもぎの串ダンゴが食べたいんだね？」

「ちがうモー！ メイプルマフィンが大きすぎたんだ」

「.....ヒヒーンそっか。 ウシマル君はメイプルマフィンに飽きちゃって、よもぎの串ダンゴが食べたいんだね？」

「ちがうモー！ ボクはメイプルマフィンよりもよもぎの串ダンゴが美味しそうにみえたんだ」

「.....ヒヒーンそっか。 ウシマル君はどっちが美味しいか確かめかったんだね？」

「あっ！ うん。 そうなんだモー」

「じゃあ、はい！ 一本残ってるから、これあげるよ」

「わあーいだモー ムシャムシャムシャ」

「どう？」

「うん。 やっぱりよもぎの串ダンゴは美味しかっただモー」

念願のよもぎの串ダンゴを食べたウシマル君。

残りのメイプルマフィンはゲームで買った方が食べられることにした。

その結果、いつもビタミンたっぷりの野菜を食べているウマキチ君が勝利した。

「じゃあ、この半分のメイプルマフィンはボクが食べちゃうね ムシャムシャムシャ」

「どう？」

「うん。 美味しかったよ」

「そう.....」

ウシマル君の口からヨダレがたくさん垂れていた。 了